



## 悔るなかれ、イマドキ電子辞書

以前書いたとおり、マイペースながら英語の勉強を続けている私にとって、ずーっと手に入れたいものがありました。それは…電子辞書です。

英語関連の辞書はもちろん持っているのですが、学生時代から使っているのもうボロボロ。加えて、やはり紙の辞書ゆえ重くて場所をとったりカビ臭くなっていますし、情報の古さも気になる場所です。そこで、電子辞書を購入しようと思い立ち、いろいろ情報を集めていました。

ところが、予想以上に種類が多いことに、まずビックリ。イマドキの電子辞書は、ターゲットを絞った「中学生向け」「高校生向け」さらに「ビジネスタイプ」など、非常に細分化されていることも初めて知りました。そうすると、私の場合は「英語重視タイプ」が一番ニーズに合っていることになりましたが、それだと「英英辞典」が何種類も入っていたりして、ちょっとハードで専門的過ぎるような気がします。

そんなこんなで、結局購入したのは「ビジネス・学習タイプ」。つまり、オールラウンドに勉強や調べものをしたい大人向け、というやつです。ちょうど一型が古くなったため、正月セールでだいぶ安く手に入れることができました。しかも、オールラウンドですから「広辞苑第六版」をはじめ「新漢語林」「和英・英和辞書」「英英辞書」さらには「ラジオ英会話」一年分、一通りのビジネス関連書籍、百科事典などなど…見ただけで面白そうなコンテンツが100種類以上入っています。

せっかく買ったのだから、もっと勉強



しなきゃ!と、奮い立つ気持ちで早速色々いじっていると、購入時には大して気にも留めていなかった「日本文学1000作品」というコンテンツが、目に入ってきました。…はて、一体どんな作品が入っているのだろう?とリストを見てみたところ、芥川龍之介、夏目漱石、太宰治など、いわゆる「文豪」たちを中心に、おそらく著作権の関係でしょうか、明治～昭和中期ぐらいまでの古典作品が並んでいます。そういえば、太宰治はいろいろ読んだけど、夏目漱石はちゃんと読んでいなかったな…などと思いながら、ふと「吾輩は猫である」を読み始めたところ…。すごく面白くて、すっかり時間を忘れてしまいました。この作品は「吾輩は猫である。名前はまだ無い」という書き出しがあまりにも有名ですが、実はどんな内容や最後なのかがよく分かっていなかったことが、改めて恥ずかしく思い知らされました。そして次は何を読もうか、ワクワクしながらリストを見ている状況です。

最初は英語関連の辞書や情報目当てで買ったものの、こんな具合で予想外の面白さも見出し、イマドキの電子辞書はあなどれないな—と実感しました。ちなみに他に「海外文学1000作品」という英語のコンテンツもあるので、追々チャレンジするぞ!と意気込んでおります。

じんぼう・みか

法政大学卒業後、文具メーカー勤務を経て業界誌記者となり、1993年独立。

取材記事、コラムなど連載。近著「パチンコ年代記」(バジリコ、07年)